

## 国内鉄道会社初

# グリーンボンド（個人向け無担保社債）を発行します

小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区 社長：星野 晃司）は、国内鉄道会社初となるグリーンボンド（※）の発行を決定しました。

当社は、個人投資家を対象とした社債を継続的に発行してまいりましたが、今般、グリーンボンドとして個人向け無担保社債を発行します。調達した資金は、車両の更新や輸送インフラの増強等の鉄道事業に充当し、環境に配慮した鉄道サービスのさらなる充実を図ります。また、グリーンボンドの発行を通じて、クリーンな輸送手段としての鉄道の有用性について、投資家の皆さまに発信してまいります。

※ 地球温暖化をはじめとした環境問題の解決に資する資金を調達するために発行される債券

グリーンボンド（個人向け無担保社債）発行の概要は下記のとおりです。

### 記

1 社債の名称	小田急電鉄株式会社第82回無担保社債（社債間限定同順位特約付）
2 社債の愛称	小田急ゆけむりグリーンボンド
3 発行総額	金100億円
4 条件決定日	2019年1月10日（木）（予定）
5 募集期間	2019年1月11日（金）～30日（水）（予定）
6 外部認証	グリーンボンドとしての適格性については、第三者評価機関であるサステイナリティクスよりセカンドパーティ・オピニオンを取得しています。また、株式会社日本格付研究所（JCR）より「JCRグリーンボンド評価」の最上位評価である「Green1」の予備評価を取得しています。2社の評価内容については、下記ホームページをご参照ください。 サステイナリティクス： （日本語） <a href="https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2019/01/Odakyu-Electric-Railways-Green-Bond-Framework-Overview_SPO_Final_Japanese.pdf">https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2019/01/Odakyu-Electric-Railways-Green-Bond-Framework-Overview_SPO_Final_Japanese.pdf</a> （英語） <a href="https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2019/01/Odakyu-Electric-Railways-Green-Bond-Framework-Overview_SPO_Final.pdf">https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2019/01/Odakyu-Electric-Railways-Green-Bond-Framework-Overview_SPO_Final.pdf</a> JCR： （日本語） <a href="https://www.jcr.co.jp/pdf/greenfinance/OdakyuElectricRailway_jp.pdf">https://www.jcr.co.jp/pdf/greenfinance/OdakyuElectricRailway_jp.pdf</a> （英語） <a href="https://www.jcr.co.jp/download/3b8c212cc19f313cd133d423d104d4ec53efd302443c59dc03/18d0907_f.pdf">https://www.jcr.co.jp/download/3b8c212cc19f313cd133d423d104d4ec53efd302443c59dc03/18d0907_f.pdf</a>
7 その他	社債の詳細は、利率決定後にお知らせします。

(備 考) 資金使途

グリーンボンドで調達された資金は、以下のプロジェクトに充当する予定です。なお、使途についてはこれまで当社が実施してきた設備投資によって減少した手元資金への充当も含まれます。

1 車両

- (1) 1000形通勤車両、特急ロマンスカー・EXE(30000形)のリニューアル資金および特急ロマンスカー・GSE(70000形)の新造資金等、従来の車両に比べ、電力消費量に削減効果のある車両の新造およびリニューアル資金

—車両の軽量化、VVVFインバータ制御装置の導入、回生ブレーキの有効活用、LED車内照明、省エネ機能付き側面行先表示器、熱線吸収・UVカットガラスへの交換に係る資金などに充当します。

2 輸送インフラ

- (1) 東北沢-和泉多摩川間における複々線化事業(上りと下りにそれぞれ2本の線路を建設することで、4本の線路に改築)に係る資金(※)

—2018年3月に開始した複々線を使用したダイヤによる運行によって、輸送力が格段に向上しています。

- (2) ホーム延伸、ホームドア設置、駅舎および駅周辺の緑化など、駅改修に係る資金

—2019年3月に予定されているダイヤ改正では、ホーム延伸工事の完了によって輸送力が強化されます。代々木八幡駅のホームを10両編成に対応できるよう延伸します。これにより、10両編成の電車が新宿から代々木上原までのすべての駅に停車できるようになります。また、開成駅でも10両編成の急行が停車できるようホームを延伸します。

—安全性強化のため、ホームドア設置を進めます。2020年度までに代々木八幡から梅ヶ丘までの6駅への設置を計画しており、2022年度までをめどに、1日の利用者数が10万人以上の8駅に設置する計画です。

—駅周辺に、環境に配慮した特色ある地域の景観を作り出すために、駅施設内外の緑化を進めます。

- (※) 複々線化事業は、東京都の都市計画事業である「連続立体交差事業(線路を高架化もしくは地下化して踏切の数を減らす)」と一体的に進めています。

以 上

本件に関するお問い合わせは以下の担当までお願いします  
小田急電鉄(株) 財務部 [引地・阿部] TEL 03-3349-2152